別紙資料１　「個別の教育支援計画」（様式５）

氏名　○○　○○

合理的配慮の観点			提供する合理的配慮
観点①教育内容・方法	①-1 教育内容	①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	・ 机の周りに衝立（ホワイトボード型の間仕切り）を準備して、授業中や休み時間に周りからの視線や音の刺激を軽減する。
		①-1-2 学習内容の変更・調整	
	①-2 教育方法	①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	
		①-2-2 学習機会や体験の確保	・ 交流学級へ授業に行けない場合、サポートの職員をつけて、できるだけ自習の時間をなくす。 ・ 交流で学習できないため、履修できない教科がある。そこで、サポートの職員の専門性を活かした学習機会を生み出す（体育、音楽）。
		①-2-3 心理面・健康面の配慮	・ ストレスがかかると離席、唸り声、地団駄、大泣きが見られるので、これらの行動が始まったらストレスになる刺激を取り除き、運動と睡眠を促す。
観点②支援体制	②-1 専門性のある指導体制の整備		・ 社会福祉士を中心に福祉、医療、心理、労働等の関係機関と家庭、学校が連携して個別の教育支援・指導計画を通して情報の共有を図り、支援体制を作る。 ・ 年に２～３回、ケース会議を実施する。
	②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解を図るための配慮		・ 校内で特別支援教育に関する研修を実施し、職員のスキルアップを図る。 ・ 個別の教育支援計画・指導計画を使って情報の共有を図る。
	②-3 災害時等の支援体制の整備		・ スクールサポーターが重点的に傍に寄り添う。
観点③施設・設備	③-1 校内環境のバリアフリー化		
	③-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮		
	③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮		・ 衝立（ホワイトボード型の間仕切り）の使用を図る。

対象者：宮崎市立檍中学校　２年　ハートフル２　A

作成者：藤田　司　（　２年ハートフル　担任　）

ICF 関連図作成日：令和　元年　５月　２０日

別紙資料２

ICF 関連図を活用した状態把握

主訴

本人の困り感を明らかにして、具体的な支援の方法と指導の在り方を探り、学校生活への適応を図っていきたい。

健康状態

ASD

健康状態は良好

服薬（ラクミタール、インチュニブ）

個人因子

進路先といった将来の見通しや目標は持ちにくい

ルーティンが得意

複雑な遊びより、単純な遊びを好む

興奮すると自分自身で切り替えができない

１時間程大泣きすると落ち着く

細かな日程が決まっていないと不安

左利き（ハサミは左利き用を使用）

パニックになると大泣きして、頭を机に打ちつける

心身機能・身体構造

集中した後は、眠気が出てくる

身辺の自立はできている

不安感が強い

他人の目が気になる

細かな作業が苦手である

食感でトマトとコーンが苦手

感覚過敏

聴覚、嗅覚が過敏である

痛みに弱い

チックの様な首を動かす動作がある

活動

基本的な生活習慣は身に付いている

暗記は得意

計算は好き

時間管理はできている

文章の読解が苦手

答えを先に知りたがる

分かった答えを周りに伝えてしまう（嘘がつけない）

大きな音や、逆に囁き声が気になる

バレーボールが得意

興奮すると言葉が乱暴になる

不安で、一人で教室で過ごすことができない

学習でつまずくと涙を流し、大泣きして壁や床を蹴りだす

参加

対人カードゲームは好んでやりたがる

ゲームで負けると悔しくて情緒が不安定になる

休日に外に出て遊ぶことはしない

異性に対して苦手意識がある

休日に遊ぶ友達はいない

活動場所が限られている

集団での活動は苦手（授業×）（給食×）（集会×）

注意を受けると不安が強まりパニックを起こす

許せない相手の持ち物を傷つけたり捨てたりする

パニックになると武器を手にしようとする

環境因子

母親が一番の理解者であり、一番側でサポートしてくれている

祖父の協力が得られる

学校の対応は？

学校カウンセリングを利用している

県の発達障害者支援センターを利用している

放課後デイサービスを利用している（２カ所）

学校で攻撃や嫌がらせをしてくる生徒はいない

主体・主義

運動が好きで思いっきり体を動かしたい

トランプなど対戦が楽しい

学校で勉強を頑張りたい

別紙資料３　「自立活動　個別の指導計画」

氏名	○○　○○	性別	○	学年・組	２年ハートフル２組
家族構成					
障害の種類	自閉スペクトラム症（ASD）				
検査結果	WISC－Ⅳ　ICF 関連図				

① 興味・関心、学習や生活で見られる長所やよさ、課題等についての情報収集

	長所、よさ	課題
生活	１、ルーティンが得意	４、安全欲求が満たされていない。 ５、パニックになった時の対処法が獲得できていない。
学習	２、学習意欲があり、授業は受けたいと思っている。 ３、計算や暗記は得意である。	６、学習環境下に安全基地がない。 ７、文章の読解力が低く、主語が混乱する。

② 長所やよさ、課題を自立活動６区分に整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	２　４　５ ６	１　４　６	３　６		６　７

③ 本人・保護者の思い

・ 毎日、学校に通って、落ち着いた環境で学習を頑張り、進学したい。

④ ２年後の姿の観点から整理

・ 参加の意思を示したり、必要に応じて助けを求めたりするなど、自分の気持ちを伝える表現力を身に付けることによって、毎日安心して学校に通うことができている。

⑤ 中心的な課題を導き出す段階

・ 学校における安全欲求を満たせるように、円滑な人間関係や学習環境を構築していくことが大切である。
・ 困ったことに直面したときパニックになるので、その状態を治めることができるように、気持ちを落ち着ける方法や、他者に援助を求める方法を身に付けることが必要である。

⑥ 長期目標（１年間）

・ 信頼関係をもって、安心して話せる相手を増やし、落ち着ける空間を学校に作る。
・ 困ったことに直面した時に、気持ちを落ち着かせたりすることや、援助を求めたりすることができる。

短期目標（１学期）

・ 教室を自分の落ち着ける場所に変えていく。
・ 困ったときや心配なことがあったときに教師に援助を求めることができる。

⑦目標を達成するために必要な項目を選定する

指導目標を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)生活のリズムや生活習慣の形成	(1)情緒の安定	(1)他者とのかかわりの基礎	(1)保有する感覚の活用	(1)姿勢と運動・動作の基本技能	(1)コミュニケーションの基礎的能力
	(2)病気の状態の理解と生活管理	(2)状況の理解と変化への対応	(2)他者の意図や感情の理解	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	(2)言語の受容と表出
	(3)身体各部の状態の理解と養護	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(3)自己の理解と行動の調整	(3)感覚の補助及び代行手段の活用	(3)日常生活に必要な基本動作	(3)言語の形成と活用
	(4)障害の特性の理解と生活環境の調整		(4)集団への参加の基礎	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動	(4)身体の移動能力	(4)コミュニケーション手段の選択と活用
	(5)健康状態の維持・改善			(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行	(5)状況に応じたコミュニケーション

⑧活動内容と項目を関連付ける際のポイント

・心（１）と人（１）（２）と環（２）とコ（２）を関連付けて設定した具体的な指導内容が「ア」である。
・心（１）と人（１）（４）とコ（１）を関連付けて設定した具体的な指導内容が「イ」である。

⑨具体的な指導内容の設定	ア　集団で SST ゲームに参加して、楽しくコミュニケーションを図ることができる。	イ　目的を果たすために、仲間と協力して、課題をクリアしていくゲームに挑戦する。